

**場所・面積**

愛知県半田市、3.3 ha

**管理目的**

鳥類をはじめとした生物全般の生息環境の維持および質向上のためのサイト整備を目的

**サイト概要****(サイトの属性、自然環境の様子)**

当区域は、当社東知多工場敷地内の遊休地を活用し、生物多様性保全活動のために整備したビオトープである。当区域には、草地、湿地、樹林、池、砂礫地と多様な環境がそろっている。湿地には、ヒメガマ、ヤマアワ、イなどの湿生植物が多様にみられ、稗田川沿いの林縁部には、ササ藪や、アカメガシワなどの林縁植物が密生する場所がある。樹林帯は湿地に隣接している。また、池は遠浅になっている。4000m<sup>2</sup>ほど広がる草地については、チガヤ、ヒ工類、エノコログサ類、コバンソウ、カルカヤ類が見られる。樹林についてはキヨウチクトウや、自生種であるムクノキ、エノキ、シャリンバイが生育している。

**(サイトで確認されている生物)**

専門家の指導のもとで実施したモニタリングの結果、2018年から2022年8月時点までに50種類以上の鳥類の飛来を確認している。また、当区域内の砂礫地では、コアジサシ（環境省レッドリスト2020 絶滅危惧 II 類）の飛来および抱卵の様子そして産座を確認した実績がある。当区域内に設置しているセンサーダブルによるモニタリングや当区域内の日常的な点検、そしてNPO団体によるモニタリングでも、複数の鳥類やほ乳類（主にタヌキ）、知多半島北部グリーンベルト指標種に登録されているトンボ類やチョウ類をはじめとした複数の昆虫の飛来・生息を確認している。

**(将来のビジョン)**

今後は生息域の質向上をめざし、ヨシを増やす取り組みなどを実施していく。また、コアジサシについても毎年継続的に営巣するよう誘致活動に取り組んでいく。鳥類のモニタリングは継続し、そのほかの生物のモニタリングについても専門家の指導のもと実施し、整備計画の見直し等行っていく。



## 土地利用の変遷

1973年3月に当社産業廃棄物埋立地として、330,000m<sup>2</sup>の土地を購入（埋立許可認定：1977年11月）。当申請区域(3.3ha) の産業廃棄物埋立期間は1993年6月～2007年8月で終了。一部廃掃法指定区域を含むため、2007年12月に埋立終了の届けを提出した後は手付かずの状態であった。（※当申請区域外の土地については、1997年8月より工場建設に着手。2000年11月に東知多工場の操業が開始した。）2018年から、衣浦湾沿岸の企業と連携したコアジサシ保全活動が始動。当社は申請区域内に存在する砂礫地を活用したコアジサシ保全活動に着手した。2018年～2019年には専門家によるポテンシャル調査を実施。専門家からは、当社には既に鳥類の生息にとって好適な環境が整っており、さらなる水場の整備などを行えば希少種（ヒクイナ・クイナ）が飛来する可能性があると助言をいただいた。そこで当社は、コアジサシ・クイナ・ヒクイナを指標種とし、かつて衣浦湾沿岸に生息していた鳥類をはじめとした生物全般の保全を目的とし、2019年から当申請区域の本格的な整備を開始し現在に至る。

## サイト周辺の環境

当区域は川（稗田川）、海（衣浦湾）と隣接しており、周辺には、草地・湿地、樹林地などの多様な環境が揃っている。特に稗田川を通じて、七本木池等のため池及びその周辺地域と生態系ネットワークを形成している。半田市のため池にはホシハジロやハシビロガモなどのカモが生息している。半田市で確認できる水生植物としてはガマ、クロモなどが挙げられる。そのほかにも、半田市内の河川やため池には、多種多様な魚類、昆虫等が生息していることが市の調査で明らかになっている。

## アピールポイント

- 当申請区域とその周辺に湿性草地、乾性草地、森、海、内陸のエノキなどの植生、川、汽水域と多様な環境が存在するために、いろいろな鳥、昆虫、両生類等が生息している点や、池と樹林の位置関係が生物の生息にとって良い環境を与えていている点は、専門家からも評価されている。
- 近隣企業3社と連携しながら鳥類保全活動を進めている。特にコアジサシ保全活動については共通の指導者のもと情報共有、現地調査を実施している。
- 観察小屋や散策路など、環境教育の場としても活用できるような施設を整備している。
- 従業員の参画を重視しており、日常的な整備や、各種イベント（コアジサシ保全活動におけるデコイ色塗り、観察小屋の組み立てなど）で従業員も積極的に参加している。

## 生物多様性の価値

### 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

#### 【場の概況】

当申請区域は環境教育の場としての価値を有している。2022年9月から2022年11月にかけて観察小屋と散策路を造成し、自然観察に適した環境が整っている。サイト内を案内する看板では、飛来する可能性がある鳥を季節ごとに紹介し、来場者が理解を深められるようになっている。看板横にシンボルツリー（エノキ）を植えており、来場者に木の成長を見届けてもらうことをコンセプトの一つとしている。また、サイトの整備には従業員も参画しており、整備活動が意識啓発の役割を担っている。

2022年5月には、構成員に小学生を含む地域の劇団員の見学に対応した実績がある。

2023年4月からは、①従業員とその家族を対象とした日曜日や長期連休中におけるサイトの開放 ②従業員に向けた青空会議場所の開放 を開始する。

#### 【主な植生】

チガヤ、ヒゴ類、エノコログサ類、コバンソウ、カルカヤ類、ムクノキ、エノキ、シャリソバイなど

#### 【確認された主な動植物】

哺乳類：タヌキ、キツネ

鳥類：オオタカ、チュウサギなど50種類以上

爬虫類：二ホンカナヘビ、アオダイショウ

両生類：ヌマガエル

昆虫類：ベニシジミ、アオモンイトトンボ、トノサマバッタなど計63種

植物：チガヤ、ヒゴ類、ムクノキ、エノキなど計59種

甲殻：アカテガニ



写真の撮影年月：2022年11月

写真の説明：サイトを案内する看板とシンボルツリー



写真の撮影年月：2022年11月

写真の説明：散策路

## 生物多様性の価値

### 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場



- 撮影日又は撮影年月：2022/5
- 写真の説明：小学生を含む地域の劇団員が当サイトを見学する様子

- 撮影日又は撮影年月：2022年11月
- 写真の説明：青空会議のイメージ

## 生物多様性の価値

### 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

#### 【場の概況】

当申請区域には、草地、湿地、樹林、池、砂礫地と多様な環境がそろっている。湿地には、ヒメガマ、ヤマアワ、イなどの湿生植物が多様にみられ、稗田川沿いの林縁部には、ササ藪や、アカメガシワなどの林縁植物が密生する場所がある。樹林帯は湿地に隣接している。また、池は遠浅になっている。4000m<sup>2</sup>ほど広がる草地については、チガヤ、ヒゴ類、エノコログサ類、コバンソウ、カルカヤ類が見られる。樹林についてはキヨウチクトウや、自生種であるムクノキ、エノキ、シャリンバイが生育している。

#### 【確認された希少種】

・オオタカ（学名：*Accipiter gentilis fujiyamae*、幼鳥・成鳥、環境省レッドリスト2020

NT・レッドデータブックあいち2020 NT）

・チュウサギ（学名：*Egretta intermedia intermedia*、成鳥、環境省レッドリスト2020

NT） 等



08/08/2021 07:35:05

写真の撮影年月：2021年8月

写真の説明：センサーダブルが捉えたオオタカ

## 生物多様性の価値

### 価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

#### 【場の概況】

当申請区域とその周辺は、湿性草地、乾性草地、森、海、内陸のエノキなどの植生、川、汽水域と多様な環境が存在するため、いろいろな鳥、昆虫、両生類等が生息することができている。池と樹林が隣接することで猛禽類の休息地や生き物の避暑地、隠れ場としての機能を果たしており、とても良い位置関係となっている。また、区域内の砂礫地は、コアジサシの誘致に適した環境であると鳥類の専門家から評価をいただいている。

#### 【対象となる動物種（動物が利用している生活史）】

代表的なものは下記のとおり。

- ・コアジサシ（休息、移動）※
- ・ケリ（繁殖）
- ・ヤマシギ（越冬、休息、採餌、移動）
- ・オオタカ（休息、採餌）
- ・チュウサギ（休息、採餌、移動）
- ・タヌキ（休息、繁殖、採餌）
- ・ヌマガエル（越冬）
- ・アキアカネ（越冬、繁殖）他

#### ※コアジサシの飛来状況（2023年）

4～5月にコアジサシの飛来を確認した。多いときには、一度に16羽ほど申請区域内に降り立っており、求愛給餌の様子や、地面に座っている様子なども確認した。ただし、卵やヒナは確認していない。



写真の撮影年月：2023年4月

写真の説明：求愛給餌をするコアジサシの様子



写真の撮影年月：2023年5月

写真の説明：ケリの親子（左・中央：雛鳥 右：成鳥）<sup>6</sup>

## 生物多様性の価値

## 価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場



- 撮影日又は撮影年月：2021年11月
- 写真の説明：池の周辺を歩きまわるヤマシギ

- 撮影日又は撮影年月：2022年10月
- 写真の説明：池に頭を突っ込むチュウサギ

## 生物多様性の価値

## 価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場



- 撮影日又は撮影年月：2021/5
- 写真の説明：池の水を飲むタヌキの様子



- 撮影日又は撮影年月：2022/10
- 写真の説明：湿地に産卵するアキアカネの様子

## サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><b>【管理計画の内容】</b></p> <p><b>1. サイトの点検</b> サイト全体の状況や、生物の生息を確認するためのセンサーハウジングが正常に作動しているかなど、現地にて確認する。</p> <p><b>2. 緑地整備</b> さまざまな生き物の生育環境を整えるために、鳥類の専門家やビオトープ管理業者の指導に従い緑地を整備する。 ただし、コアジサシやケリが繁殖する時期は避ける。</p> <p><b>3. 外来種等の駆除</b> 外来種の開花・結実時期を踏まえ、繁殖が盛んになる前に駆除を実施。 ただし、コアジサシやケリが繁殖する時期は避ける。</p> <p><b>4. 池への水補給</b> 湿性環境維持のため、必要に応じて水を補給する。</p>	<p><b>1. 鳥類の生息・飛来状況の確認を目的とした専門家の指導による 鳥類モニタリング</b></p> <p><b>【モニタリング対象】</b> 鳥類</p> <p><b>【モニタリング場所】</b> 申請区域全体</p> <p><b>【モニタリング手法】</b> エリア内を歩いて回り、目視で鳥の姿を確認する</p> <p><b>【実施時期及び頻度】</b> 原則、1年に5回（春・夏・秋・冬+コアジサシが飛来、営巣する5月頃）実施</p> <p><b>【実施体制】</b> 環境マネジメント部員4名、鳥類の専門家1名で約1時間実施。エリア内を歩いて回り、目視で鳥の姿を確認する。</p> <p>有識者の経歴：高橋伸夫（西三河野鳥の会事務局、NPO法人愛知生物調査会 理事長、愛知県野鳥保護協議会 議長、環境省 希少野生動植物種保存推進員） 専門分野：鳥類</p>

## サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	(続) モニタリング計画の内容
	<p><u>2. 鳥類やほ乳類の生息・飛来状況確認のためのセンサーカメラによるモニタリング</u></p> <p><b>【モニタリング対象】</b> 鳥類やほ乳類等の生物</p> <p><b>【モニタリング手法】</b> センサーカメラを設置し、撮影している。</p> <p><b>【実施時期及び頻度】</b> カメラは常に設置。1か月に2回、撮影データのチェックを実施している。</p> <p><b>【実施体制】</b> データのチェック、生物の同定は当社環境マネジメント部員が実施し、必要に応じて専門家に同定を依頼する。</p>

## サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	(続) モニタリング計画の内容
	<p><u>3. 「命をつなぐPROJECT」学生実行委員による生物全般の生息状況確認のための生物モニタリング</u></p> <p><b>【モニタリング対象】</b> 生物全般</p> <p><b>【モニタリング手法】</b> エリア内を歩いて回り、目視で生物やそのフィールドサインを確認する。</p> <p><b>【実施時期及び頻度】</b> 原則、1年に3回（春・夏・秋）実施</p> <p><b>【実施体制】</b> 環境マネジメント部員4名、NPO団体「命をつなぐPROJECT」学生実行委員1～5名で約1時間実施。エリア内を歩いて回り、目視で生物やそのフィールドサインを確認する。同定は、命をつなぐPROJECTに所属する専門家の指導のもと、学生が実施する。</p>